

## 1 安全防災・危機管理対策

### (1) 年末年始の輸送等に関する安全総点検

輸送が繁忙する年末年始に臨み、自主点検等を通じて海上輸送の安全性の向上及び安全意識の高揚を図るため、管内の旅客船事業者、人の運送をする不定期航路事業者、内航貨物船事業者に対して、年末年始の輸送等に関する安全総点検を実施している。

令和元年度は、以下の4点を重点点検事項とし、経営トップから現場まで一体となった下での安全性向上等を図ることを目的とした総点検を行った。

- ① 安全管理（特に乗務員の健康状態、過労状態の確実な把握、乗務員に対する指導監督体制）の実施状況
- ② 自然災害、事故等発生時の乗客等の安全確保のための通報・連絡・指示体制の整備・構築状況
- ③ テロ防止のための警戒体制の整備状況や乗客等の安心確保のための取組、テロ発生時の通報・連絡・指示体制の整備状況及びテロ発生を想定した訓練の実施状況
- ④ 新型インフルエンザ対応マニュアル、事業継続計画の策定状況、対策に必要な物資等の備蓄状況及び職場におけるうがい・手洗い等感染防止対策の周知・徹底状況

年末年始の輸送等に関する安全総点検結果（令和元年12月10日～令和2年1月10日）

	事業者数		船 舶	
	旅客船	貨物船	旅客船	貨物船
自主点検実施事業者・船舶数	95	52	208	189
現地確認実施事業者・船舶数	14	0	28	0

### (2) 運輸安全防災・危機管理業務推進本部

神戸運輸監理部各部署が連携して運輸安全防災・危機管理行政を積極的に展開し、運輸事業者の安全防災・危機管理に係る取組みを推進することを目的とする運輸安全防災・危機管理業務推進本部会議を、令和元年5月21日に開催し、令和元年度運輸安全マネジメント評価実施計画及び防災業務計画等の改正にかかる審議を行った。

### (3) 防災訓練

神戸運輸監理部防災業務計画に基づく総合防災訓練を、令和元年10月24日に実施した。

そのほか、職員の初動対応の習熟を目的とした安否確認訓練（平成31年4月22日、7月20日、12月16日）を実施した。

#### (4) 運輸安全マネジメントセミナー

運輸安全マネジメント制度の普及・啓発、浸透・定着に向け、運輸事業者の安全担当者を対象として各地方運輸局で開催する「運輸安全マネジメントセミナー」を、令和元年7月1日～2日に実施し、延べ222人が受講した。

#### (5) 市民救命士講習会

災害時における負傷者の救助体制確立のため、神戸運輸監理部で組織する救急救命チームの職員を対象とした市民救命士講習会を令和元年6月21日に開催し、「普通救命コース」は17名、「けがの手当コース」は15名が受講した。

#### (6) テロ対応にかかる関係機関との連携

東京オリンピック・パラリンピック2020の開催に向け、日本国内でテロ対策の必要性、中でも多数の観客や市民へのテロ攻撃(ソフトターゲットテロ)に対し、官民一体となった対策が求められており、兵庫県では兵庫県警察本部が主体となった「テロ対策兵庫パートナーシップ推進会議」が設立され、神戸運輸監理部もこれに参画するとともに、水際テロ対策を中心とした各種訓練等に協力、参加している。

令和元年は、同推進会議が参画する西日本旅客鉄道(株)の「新幹線の実車を使用した合同訓練」(令和元年5月20日)、神戸文化ホールでの「コンサート避難訓練」(令和元年9月16日)に参加した。

#### (7) 災害時支援船活動実証訓練

大規模災害時においては、被災地に車中泊避難者や医療・介護・看護が必要な避難者が多数発生することが想定されている。このような方を被害の少ない地域の受け入れ施設(自家用自動車での車中泊避難に対応する宿泊施設や病院等)に移送することにより、車中泊避難にかかる諸問題や避難者への適切な医療サービス提供が可能となることから、移送手段としてのフェリーの活用と、関係する自治体間の連携協力体制の確立を目指す学識経験者を中心とする「災害時支援船実証訓練実行委員会」が発足し、神戸～小豆島～高松間を運航するジャンボフェリー(株)を用いた実証実験が計画された。

当該実験は、神戸市、小豆島町、高松市の参加の下、同実行委員会により令和2年1月12日に実施され、神戸運輸監理部も旅客船事業所管官庁の立場から、安全防災・危機管理調整官と海上安全環境部海事保安・事故対策調整官及び海事振興部担当課等が連携して訓練に参加し、必要な助言等を行った。